

二学期制の検証結果をお知らせします

1 二学期制の成果

市では平成18年度から全ての小・中学校で二学期制を実施してきました。これにより、学校の教育活動にゆとりが生まれ、その時間を子どもたちのために活用できるようになりました。各学校では、これまでの教育活動の見直しが行われ、さまざまな成果が見られるようになりました。

子どもとの関わりの増加

教育活動の見直しは、子どもとの関わり方を見直す(振り返る)機会となりました。その結果、学校管理職の約8割、教職員の約7割がより積極的に子どもと関わるようになったと感じています。

学校行事の充実

学校行事は実施時期でねらいや内容が異なりますが、二学期制を導入したことで、このことがより明確になりました。例えば、春の運動会は集団作りを中心として、秋の運動会は学習成果の発表の場として取り組むなど、各校の考え方や実態に合わせて実施しています。
(運動会～春実施…8校、秋実施…7校)

夏休みなどの活用の充実

夏休みが学期の途中になったことで、各校においてさまざまな取り組みを行いました。

- 夏休みなどの補充学習の充実
→全ての小・中学校で平均7日間程度実施。
(サマースクールなど)
- 教育相談・個人面談の充実
→夏・冬休み前や期間中に全ての小・中学校で実施。

休み前の活動の充実

夏・冬休み前の7月や12月が学期末ではなくなったことからゆとりが生まれ、落ち着いて授業ができるようになりました。さらに、職場体験活動や宿泊学習などの教育活動もできるようになりました。

学力対策や不登校対策にも効果が見られるようになりました

学力の向上や不登校者数の減少の要因はさまざまですが、二学期制の取り組みも良い影響を与えています。

子どもたちの学力向上

全国学力・学習状況調査の結果では、国語、算数、数学において、全国平均を上回る、または同程度となっています。このことから子どもたちの学力が向上していることがうかがえます。

※平成22年広報おむら
11月号に掲載。



不登校者数の減少

教職員が子どもたちと関わる機会が増えたことにより、一人ひとりの状況をより正しく理解できるようになりました。このことは不登校者数の減少にもつながっているとらえています。

- 不登校者数
H19…193人、H22…131人

2 二学期制の課題

- ①二学期制の目的や各学校の取り組みについて、積極的な情報発信をしていく必要があります。
- ②二学期制の良さを生かした教育活動を充実させていくために、学校、保護者、地域がより一層連携していく必要があります。



3 二学期制のこれから

市はこれまでの成果をさらに充実させるとともに、課題の改善を図りながら、これからも二学期制を継続し、さらなる教育活動の充実を図っていきます。

※詳しくは、市のホームページでお知らせします。

■学校教育課(内線367)